

刑 法

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙は1枚配付します。
- III 解答にあたっては、黒のボールペン・黒インクのペンのいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック消しゴムで消せないものに限りません）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。
- IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直してください。修正液・修正テープを使用してはいけません。
- V 設問が複数の場合は、解答用紙に設問番号を明記したうえで、解答してください。設問番号の記入がない場合は、無効とします。
- VI 試験時間は60分です。
- VII 問題は1ページにあります。

刑 法

甲は、以前から険悪な関係にあった隣人の A と道端で■論になり、激昂した A から突然、素手で顔面を殴られた。A は甲の胸ぐらを掴んで更に殴りかかって来たため、甲は自分の身を守るために、A の胸元を両手で突き飛ばした（第 1 暴行）。突き飛ばされた A は、その勢いで後方に倒れ、後頭部を地面に打ち付け、仰向けに倒れたまま意識を失った。A が動かなくなった様子を見た甲は、今まで A にされた嫌がらせを思い出して憎悪の念が込め、動かなくなっている A に対して、「良い気味だ、もっと痛めつけてやる」と思いながらさらに足蹴にするなどの暴行を加えた（第 2 暴行）。甲は第 2 暴行の後、A が倒れているのをそのままにしてその場から立ち去った。A は、最終的には、甲の第 1 暴行に起因する頭蓋骨骨折に伴う急性硬膜下血腫が死因となって約 30 分後に死亡した（第 2 暴行は死因や死亡時期には全く影響しなかった）。

甲が立ち去ってから 1 時間後、付近を通りかかった乙は、人が倒れているのに気付き、近寄って見たところ、自分の大嫌いな A であることに気付いた。乙は A が意識はないもののまだ生存していると思い、とどめをさすつもりで頭部を思いきり踏みつけた。また、A の腕にあるのが高級腕時計であることに気付いて、自分で使おうと思い、これを持ち去った。

甲および乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く）。

以 上